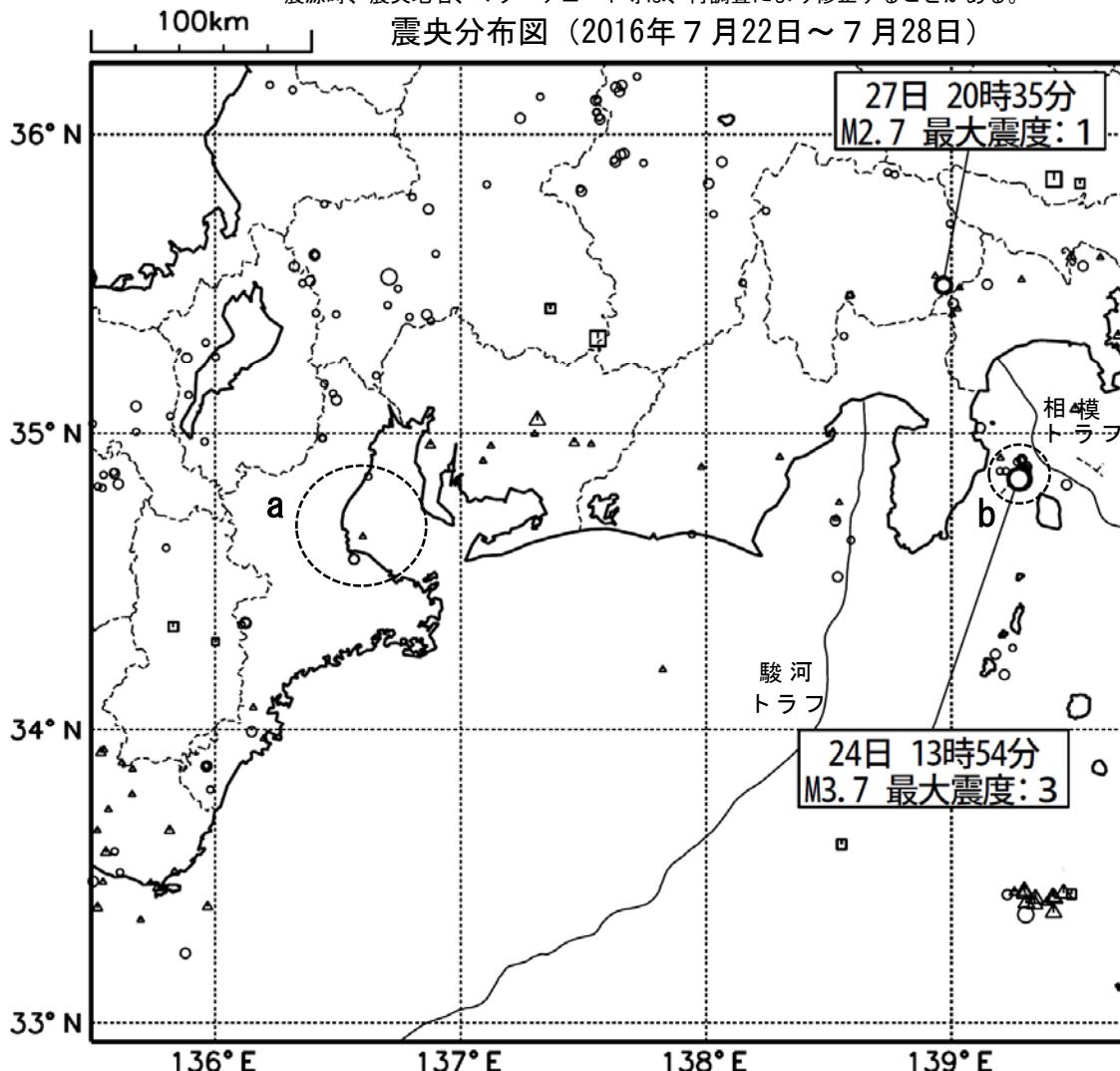


東海地域の週間地震活動概況 No. 31

*震源時、震央地名、マグニチュード等は、再調査により修正することがある。



「震度1以上を観測した地震」、「東海地域でM3.0以上、その他の地域でM4.0以上の地震」及び「その他注目した地震」に「震源時、マグニチュード、最大震度」を付している（震源の深さ0～90km）。

[概況]

特に目立った活動はなかった。なお、平成25年はじめ頃から浜名湖付近のプレート境界で発生している「長期的ゆっくりすべり」は、平成27年半ば頃からは、やや緩やかになっていますが、依然継続しているように見える*。

【東海地域】

[地震活動]

- 特に目立った活動はなかった。

[深部低周波地震活動]

- 27日から28日にかけて、三重県から伊勢湾（領域a）を震央とする深部低周波地震が観測され、同時に複数のひずみ観測点で地殻変動が観測されたことから、短期的ゆっくりすべりが発生したと考えられる。

【その他の地域】

- 24日から伊豆大島近海及び伊豆半島東方沖（領域b）でまとまった地震活動が始まり、24日に最大震度3が3回観測され、24日から25日にかけて最大震度1以上を観測する地震が17回発生した。

*上の震央分布図には、震源決定精度が高い地震の震央のみ表示している。このため、震源決定精度が高くない深部低周波地震の震央は表示されない。

国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、青森県、東京都、静岡県及び神奈川県温泉地学研究所、気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震緊急観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、IRISの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

*平成28年7月地震防災対策強化地域判定会議会見資料 (<http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/gaikyo/hantei20160725/mate01.pdf>) 参照